



宮司プレス 第二百五号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和五年九月二十七日

◇宮司の柴田です。 明け方と日暮れどきに、心地よい風が吹き抜けるようになりました。今年の六月から八月は、各地で三十五度を超える猛暑日となった日が多く、「お彼岸の中日」を過ぎたというのに、厳しい残暑が続いています。 気象庁の一ヶ月予報(九月二十三日〜十月二十二日)によりますと、残暑は、まだまだ続く見通しで、さらに、十月上旬まで最高気温が三十度近くになる地域もあるそうで、「十年に一度の暑さとなる見込み」なのだそうです。 ◇過日の九月八日、九日の両日は、境内西側に御鎮座になる、若宮神社の例祭を御奉仕し上げました。 西日が強く、暑かったのですが、狩衣の下に、単を重ねる、狩衣正装にてお仕えました。 さて、なぜ、「若宮神社」と呼称されるようになったのでしょうか、この「若」には、御先祖様方の、どのような思いがこめられてきたのでしょうか。 私は、三つの意味が、こめられていると思います。 一つは、新しいという意味です。 当宮は、御創建されてより、八百六十五年ですが、若宮神社は、およそ六百年ほど前

の御創建と伝わっていますので、当宮からすると、新しいお宮ということになります。 若宮神社の御祭神は、仁徳天皇様でございます。 仁徳天皇様は、当宮の御祭神である応神天皇様の第四皇子であられます。 二つめは、天皇様のお子様を意味します。 特に、御祭神の仁徳天皇様は、御聖徳(すぐれた知徳のことで、特に天皇の徳のことです)な天皇と称えられました。 それは、租税を三年間も免除された天皇様だからだそうです。 十月から、インボイスも始まり、厳しい世相となりますが、仁徳天皇様の御聖徳にあやかりたいものです。 さらに、三つめの意味は、神様のお力、これを、御神威といいますが、強く猛々しい御神威をお持ちだという意味が、こめられています。 もともと、地元迫町の農業の守護神として祀られていたのですが、事情により五十年程前に境内に御鎮座になられた経緯があります。 「雨乞い」

の御霊験あらたかな神様として崇敬されてきました。 じつは、下関も俄かには、信じがたいお話なのですが、湯水にみまわれ、断水を余儀なくされたことがありました。 なんと、その当時の水道局関係者が、若宮神社に、「雨乞い参拝」されたのです。 そのような、新しく、力強く、なによりも、その大神様の御神徳により、さらなる御加護をたまわり、若宮大神様ともどもに永遠に若返る、これが、なにより一番大切なことで、例祭の大きな意義なのでした。 四年ぶりに平家踊りの奉納もあり、「直会復活元年、奉納平家踊り復活元年」を皆様と喜び合いました。 ◇前述の「お彼岸の中日」は、旧暦の二十四節氣のひとつでもあります。 今年、「改暦百五十年」の節目の年だと御存知でしたか。 ちなみに、昨年は、「鉄道敷設百五十年」でした。 明治五年十二月三日、政府はこの日をもって明治六年一月一日として、旧暦を廃して新暦に改めました。 月の満ち欠けでひと月の長さを決めたのが、旧暦です。 正式には、「太陰太陽暦」

で、ズレを調整するために、適宜、閏月うるうづきをはさまなければなりません。十九年に七度の閏月を設けて平均させていたそうです。太陽の動きを反映した新暦

今の暦の方が、実際の季節に即そくしてとされています。しかしながら、このような「気象災害」ともいうべき、気象状況では、季節を感じさせられるのは、「旧暦」しかないのではないかと考えるようになりました。今月二十九日は、「仲秋の名月」ですが、当宮でも、観月祭を斎行します。旧暦の八月十五日のお月様が、「仲秋の名月」です。旧暦の九月十三日のお月様が「十三夜月」でありまして、両方、愛めでな

いと、「片見月かたみつき」といって、縁起が悪いとされました。この旧暦のなかに、日本人が大切にしてきた「しきたり」や「伝統的行事」が根づいているような気がしてなりません。この「しきたり」、「伝統行事」のことを、民俗学者の折口信夫さんは、「生活の古典」と仰おつしやいました。国連は、令和十二年までに、「持続可能な開発目標 SDGs」の達成を掲げていまして、最近の新聞では、あまり芳かんばしくない進捗しんちよく状況だと報じられていました。われわれ、日本人の「持続可能な開発目標 SDGs」の

ひとつに、「旧暦による日本人の神事、しきたり」を守り伝えることを加えるべきではないか、という思いを強くしています。

◇来月は、十月、秋季例大祭斎行の月でもあります。生活の古典を大切に、大神様と共に、永遠に若返ることができますよう御奉仕申し上げます。ご自愛ください。

◇九月の祭典行事報告予定も含む

▼月次祭 *九月一日、十五日

▼花手水

*一回目 九月十四日〜九月二十日

*二回目 九月二十一日〜九月三十日



▼貴布祢神社月次祭 *九月一日

▼若宮神社例祭 *九月八日〜九日

※境内の西側に御鎮座の境内社。もともとは、地元迫町の農業の神様としてお祭りされていたのだが、諸事情により五十年程前から境内に御鎮座になっている。別名

「雨乞いの神様」として、六百年近い歴史をほこる。四年ぶりに、平家踊りが奉納された

▼玄洋三十五回傘寿参拝 *九月十九日

※玄洋中学校を昭和三十五年に卒業された同窓生の皆様の参拝

▼秋季祖霊祭 *九月二十三日

▼萩市歴史研究会参拝 *九月二十九日

▼観月祭 *九月二十九日

◇九月の宮司動静(予定も含む)

▼神社関係団体

□敬神婦人会役員会 *九月二十二日

□維蘇志会秋季例大祭会議

*九月二十七日

▼神社庁関係

□神職養成講習会(権正階検定) 講義出向

*九月一日 〓 四コマ

*九月二日 〓 四コマ

*九月四日 〓 四コマ

*九月十日 〓 二コマ

※神社神道概説Ⅱ(神社神道史)の科目、一コマ五十分の十四コマを担当

□神職養成講習会成績判定会議

*九月十二日

□神職養成講習会閉講式 *九月十二日

□神社庁役員会研修会 *九月二十八日

※山口県護国神社参拝

▼自治会、学校関係

□若宮神社櫓設営作業 *九月七日

□若宮神社櫓撤収作業 *九月九日

□ヒコットランドマリナーチ清掃作業

*九月十六日

□迫町祝賀敬老の集い *九月十七日

□福浦二町敬老祝賀会 *九月十七日

▼人権擁護委員人権相談 *九月十五日